

(2022年10月27日付・下野新聞1面)

# 「家族を世話」全国上回る

## ヤングケアラー 県が初調査

小学生12%  
中学生8.2%  
高校生5%

大人に代わり家族の介護や世話を日常的に担つて行つた実態調査で、「世話をしている家族がいる」と答えたのは小学生で12.0%（8人に1人）、中学生で8.2%（12人に1人）、高校生で5.0%（20人に1人）に上つたことが26日までに分かった。いずれの割合も国の調査結果を上回つた。このうち、家族も含めて相談した経験があるとした児童生徒は約2割にどまり、潜在化しがちな実態も浮き彫りになつた。

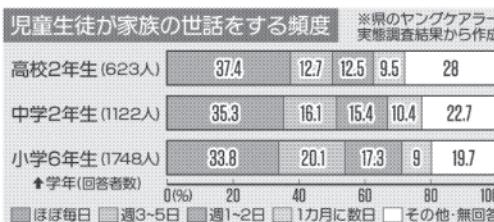
（田崎智亮）2面に関連記事

## 相談2割、潜在化しやすく

調査は7月、県内の小学6年、中学2年、高校2年の計約5万2千人に実施した。「世話をしている家族がいる」と回答した小6は、0・9倍上回つた。

世話をする相手を複数回答で聞いたところ、「きょうだい」「母親」の順に割合が高く、内容は「家事」「見守り」が目立つた。

話をする相手を複数回答で聞いたところ、「きょうだい」「母親」の順に割合が「取れない」「足りない」と答えた。話をする頻度は各学年とも「ほぼ毎日」が約35%で最も多かつたが、国の結果と比べると約10～20%が低かった。世話をする頻度が高いほど、1日のうち世話をに長時間を費やす傾向も見られた。



## 設問

【1】記事に照らして、ヤングケアラーとはどのような人のことですか。

【2】記事に照らして、ヤングケアラーの実態調査について、正誤を○×で答えてください。

- 「世話をしている家族がいる」と答えた児童・生徒の割合は高校2年生が最も多い
- 「世話をしている家族がいる」と答えた児童・生徒のうち、週1～2日の頻度と答えたのは小学6年生が最も多く
- 「世話をしている家族がいる」と答えた児童・生徒の割合は、小・中・高すべてで国調査結果を上回つた
- 家族も含めて相談した経験があるとした児童生徒は1割にとどまっている

【3】記事に照らして、本県と国の調査結果の比較について、正誤を○×で答えてください。

- 「世話をしている家族がいる」と回答した小学6年生は国の結果の2倍以上である
- 「世話をしている家族がいる」と回答した中学2年生と高校2年生では、国調査と比べて本県の高校2年生の方が上回つている割合が高い
- 「世話をしている家族がいる」と回答した本県の中学2年生の割合は国調査結果の1.5倍以上である
- 「世話をしている家族がいる」と回答した本県児童生徒の割合は年齢が高くなるにつれて減少傾向にある

【4】記事に照らして、世話をする相手や

とも「ほぼ毎日」が約35%で最も多かつたが、国調査結果と比べると約10～20%が低かった。世話をする頻度が高いほど、1日のうち世話をに長時間を費やす傾向も見られた。

相談経験があると回答した児童生徒のうち、家族以外に相談したのは全体の半数に満たなかつた。

理由は「相談するほどの悩みではない」との答えが6割を占めめた。

県は有識者の意見や分析は8割に達した。一方で「外部の支援につないでいない」との回答は小・中学校で4割、高校では小・中学校で4割、高校では8割に達した。

田畠一知事は「家族が病気

であるケースと、通常の家庭手伝いが混在していないなど調査結果の分析をした上で、支援について検討を進める」と述べた。

内容の解答について正誤を○×で答えてください。

- 世話をする相手は「きょうだい」・「母親」の順に割合が高い
- 世話をする内容は「家事」・「見守り」が目立つた
- 世話をする児童・生徒の半数以上が、睡眠や勉強の時間が「取れない」「足りない」と答えた
- 世話を「ほぼ毎日する」頻度は国調査結果と比べると約10～20%が低かった

【5】記事の内容と、下線部①・②・③の状況を踏まえて、あなたはヤングケアラーについて、何が課題でどのような対策が必要だと思いますか。100字程度で自由に論じてください。

## 高校生向け 年組

記事は加工しています